



東地中海地域ニュース

イスラエル・パレスチナ：首脳会談

(2月21日付「アル・ハヤート」紙)

2月19日エルサレムにて、ライス米国務長官の仲介によるオルマート・イスラエル首相とアッバース PA 大統領の三者会談が行われた。

1. アッバース PA 大統領の発言（要旨）

- (1) アッバース大統領は、アブドゥラー・ヨルダン国王との会談後のペトラ通信の取材に対し、「イスラエルは、メッカ合意について誤解しているかも知れない。我々は、先の三者会談においてイスラエルに対し、本合意はパレスチナ人の団結と国民的利益を守る為のものである旨を伝えた。」と語った。
- (2) 又、アッバース大統領は、「三者会談は、困難且つ緊張したものであったが、失敗ではない。今後も会談が行われる。」と述べたが、次回会談の具体的な日程については特定をしなかった。

2. アッバース大統領の側近筋の発言（要旨）

- (1) オルマート・イスラエル首相は三者会談において、アッバース大統領がハマスと「対イスラエル同盟」を結んでしまったと激怒し、ファタハが次期内閣に参加しないことを要求した。アッバース大統領は、このオルマート首相の態度に激怒しながらも、これを拒否し、退席しようとしたが、ライス米国務長官にとりなされて、席に戻った。
- (2) アッバース大統領はオルマート首相に対して、「拳国一致内閣の組閣を取り下げることではない。同内閣は、パレスチナ内部の足並みを揃えることを保証する唯一のものであり、イスラエルには何ら関係がない。」と述べた他、「貴（オルマート）首相は、メッカ合意の前に何をしてくれたというのか。我々の資金さえ凍結して返さなかったではないか。貴首相は、パレスチナに内戦を引き起こそうとしている。」と激しく非難した。

3. 米国やイスラエルが新パレスチナ内閣のボイコットを警告し、更に、イスラエルはアッバース大統領自身に対するボイコットまでを示唆し、脅迫したにもかかわらず、アッバース大統領が強い姿勢で臨んだことについて、ファタハの指導部は安堵している。一方、大統領の側近達は、これまでハマス内閣に限定されてきた封鎖措置に、アッバース大統領までもが巻き込まれる虞を懸念している。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799